

4. 日本薬史学会の歴史と現状

三澤 美和

日本薬史学会前副会長・現監事

日本医史学会創立90周年を記念して開催された医史学会特別月例会において、六史学会の構成一員である日本薬史学会の歴史と現状について話をさせていただく。

1. 日本薬史学会とは

「日本薬史学会」は、薬学、薬業に関する歴史の調査研究を行い、薬学の進歩発達に寄与することを目的とする。薬学の教育・研究、医療社会、医薬品産業など広範な分野において、「現在」と「過去」との対話をしつつ、「未来」に向けた歴史観をもって活躍されるよう呼びかける。

2. 日本薬史学会事務局所在地

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 学会誌刊行センター内

3. 本会の生い立ち

故東京大学名誉教授 朝比奈泰彦先生を初代会長として、1954（昭和29）年に創立された学会である。本年は創立64年目に当たっている。

【設立の意図】

「自然科学的な薬学発表だけでは薬学を語れない。薬の物性を論ずるのみでなく、医療社会の実践や患者を意識した薬学的考察も必要なのではないか」という問いかけが薬史学者から出され、史的視点を意識し人文学、社会学領域を視野に入れた薬史学会の設立がなされた。

4. 歴代会長

初代朝比奈泰彦会長は22年間の長きにわたりその任にあられた。以後、木村雄四郎、野上寿、柴田承二、山川浩司、津谷喜一郎の各先生を経て、

現在は折原 裕先生が会長である。

5. 学会ロゴマーク

薬剤師、薬研、天秤があしらわれている。2005年に制作。

6. 会員数

会員数（2017年3月10日現在）は、名誉会員8名、一般会員240名、団体会員16名、学生会員11名、外国会員1名、賛助会員13名、外国会員（贈呈）4名、寄贈会員6名の計299名。

7. 学会運営の組織

現在の役員構成は、会長、副会長各1名、常任理事7名、理事22名、監事1名、評議員36名からなる。

常任理事会は、会長、副会長、常任理事、監事の10名からなり、日常の会務を遂行している。常任理事会の下に、総務、財務・会員管理、編集、企画、柴田フォーラム、広報、国際の7つの常置委員会がある。支部として、中部支部、関西支部が活動している。

8. 主たる集会・講演会・発表会の状況

毎年、4月に東京大学薬学部で開催される総会と公開講演会、8月に柴田フォーラム、10月または11月に年会、12月に六史学会が行われている。年会は日本各地で行い、一般口演、特別講演、ときに市民公開講座、シンポジウム、薬史跡めぐりも組まれる。この外に、日本薬学会薬史学関連部会、支部講演会・例会、国際薬史学会でも発表が行われている。

9. 学会機関誌

学術誌としては、『薬史学雑誌』が1966年以来、編集・刊行されてきている。年2回の発行で、年間約15-20報の論文が掲載。1980年以来、薬史学雑誌はMedlineに登録・掲載されている。また過去の全号全ページがWeb siteで公開されている。

そのほかに、『薬史学会通信』が1985年から刊行。2006年から『薬史レター』と改称されている。現在は年2回の発行で、会員への年間行事の通知、支部情報、会員情報、書籍紹介、随筆などを掲載。

2006年、日本薬史学会は国際薬史学会（ISHP）に入会（アジアで初の入会国）。年1回ISHPの機関誌であるNEWS LETTERを学会ホームページを介して会員に配信している。

10. 薬史学文庫

諸先輩から寄贈いただいた薬史学に関する書籍や雑誌等、全342点が東京大学薬学図書館（東京都文京区本郷）で閲覧できるようになっている。蔵書内容として、

(1) 教科書類、(2) 薬局方関係、(3) 薬学関係者の伝記、(4) 薬学史・医学史、(5) 図鑑および年表、(6) 社史・研究機関史類、などがある。

11. 日本薬史学会学術賞

「日本薬史学会賞」と「日本薬史学会奨励賞」を設置しており、過去の受賞者はそれぞれ4名および1名である。

12. 学会が編纂した企画出版物

1 『薬学史事典』（日本薬史学会編集、薬事日報社、880ページ、2016年発行）。日本の薬学史、

日本の医療史、外国の薬学史、外国の医療史の4部からなり、それぞれ総論と各論から構成されている。今後多方面での活用が期待される。

2 『日本医薬品産業史』（日本薬史学会編集、薬事日報社、232ページ、1995年発行）。日本医薬品産業の特質、近代史、現代史、年表が記載。

3 『日本薬史学会五十年史』（日本薬史学会、2004年発行）。日本の薬学戦後50年史（薬学各分野の学問についての変遷）と明治期に創設された薬科大学・薬学部 of 歴史が掲載。

4 『韓国薬史学関連論文集』（e-book、2015年刊行）。1966～2013年に薬史学雑誌と薬史レターに掲載された日韓関連論文等20数報を集めている。

5 『日本薬史学会創立六十周年記念号』（薬史学雑誌49巻1号、2014年）。日本医薬品産業現代史（1980～2010年）と日本薬史学会の活動（2004～2013）が掲載。

6 訳書『薬学の歴史 くすり 軟膏 毒物』（2017年度発行、232ページ、薬事日報社）。日仏薬学会と日本薬史学会共編。

13. その他の活動

1980年（日本薬学会百年史別冊年表）以来、5年毎に日本薬学会から委嘱を受けて日本薬学会史年表の作成作業を行ってきた。最近では、「日本薬学会史年表（続）2011-2015年」をファルマシア53巻1号（2017年）に掲載。

日本医史学会創立90周年に祝意を表するとともに、医史学会をはじめ、本日お揃いの各学会との親交を今後ともお願いする次第である。